



環境リスクPress

2022年9月発行 / VOL.38

アスベスト関連ニュース

東京仕事センター改修工事でアスベスト漏洩(2022/8)

令和4年7月1日、午前11時半頃、エレベーターシャフト内のアスベストを含有した耐火被覆材の撤去中に、作業中のエレベーターシャフトの1階扉部分から、1階エレベーターホールに粉塵が漏れいしていることを確認された。事故発生後、代替経路を確保の上1階エレベーターホールを閉鎖。1～12階エレベーターホールの清掃や扉の目張りを増強し、空気環境測定を行った結果、アスベストの量は一般大気環境中と同等と確認されている。7月1日(金)・2日(土)の間にエレベーターを利用された方を対象にした相談窓口を(株)熊谷組に設置した。工事は中断されていたが、関係機関への再発防止策の報告が完了したことから、アスベスト対策工事以外の工事については8月8日週から再開に向けた準備を行うと発表された。アスベスト対策工事につきましては、アスベスト漏えい防止対策を実施し、関係機関の確認後に、工事を再開するとしている。

中皮腫特効薬「5年で実用化も」群馬医療福祉大(2022/6)

中皮腫の特効薬となる次世代抗体医薬品「ズーム」の開発を目指す群馬医療福祉大(群馬県前橋市)などの研究が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の事業に採択された。特効薬に用いるのは、辻教授が神奈川県立がんセンター(横浜市)在職時代に発明した中皮腫向け抗体「SKM9-2」。医薬品メーカーの日本メジフィジクス(東京都)と医薬品開発を進め、次世代バイオ医薬品製造技術研究組合(MAB)が量産態勢を整える。

アスベスト含む建材運搬の運転手遺族和解(2022/6)

アスベストを含む建材の運搬業務に従事した為、悪性胸膜中皮腫になり、2月に死亡した兵庫県尼崎市の男性(当時62)の遺族が国に損害賠償を求めた訴訟が3日、大阪地裁で和解した。国が責任を認めて1300万円を支払う内容で合意した。国と建材メーカーの責任を認めた昨年5月の最高裁判決を受け、給付金を支払う国の仕組みが今年1月に始まっている

環境リスク関連ニュース

2022年7月

川崎市の古い生コン再利用問題 建築基準法違反(2022/6)

川崎市宮前区の生コンクリート製造業者「小島建材店」が余った生コンを不正に再利用し、新しいものを混ぜて施工業者に出荷していた(2022年1月上旬から1か月間)問題について、川崎市内の20棟の建物で、建築基準法に抵触していることが判明した。

市は、基礎の打ち直しなどの改修工事や、建築材料などの国土交通大臣認定の取得で、対象の建物の法適合を目指すとしていて、9月末をめどにそれぞれの建物の今後の対応方針を確認するとしている。

経産省「低濃度PCB汚染の電気機器適正処理手引き」(2022/3)

経済産業省及び環境省は、低濃度PCBに汚染された電気機器等の早期確認のために調査方法を記載した「低濃度PCBに汚染された電気機器等の早期確認のための調査方法及び適正処理に関する手引き」が公開されている。製造後30年以上経過した古い電気機器の絶縁油は、PCBIにより汚染されている可能性があり、こうした機器のうちPCB濃度が0.5mg/kg(=ppm)を超え5,000mg/kg以下のものは低濃度のPCBIにより汚染された機器に該当する。これらを廃棄する場合は、低濃度PCB廃棄物としてPCB特措法において令和9年(2027年)3月31日までに処分しなければならない。

令和2年度土壌汚染対策法の施行状況及び土壌汚染調査・対策事例等に関する調査結果の公表(2022/05)

環境省では、令和2年度土壌汚染対策法の施行状況及び土壌汚染調査・対策事例等に関する調査結果を公開した(全国の都道府県・政令市を対象)。令和2年度に、土壌汚染対策法に基づく土壌汚染状況調査結果が報告された件数は1,342件となり、このうち、土壌の汚染状態が指定基準を超過し、要措置区域等に指定された件数は518件で、制度が施行された平成22年4月からの累計では5,230件となった。

過去の環境リスクPressはこちらから [環境リスク.COM](http://www.kankyorisk.com) <http://www.kankyorisk.com>

【発行】 アスベックス株式会社

〒194-0023 東京都町田市旭町2-7-8

[TEL]042-726-0744 [FAX]042-726-0726